

動作に適応したゆとりについて

福山市立女短大 ○増田智恵 山本百合子 広島大学校教育 増田茅子

【目的】スタンドカラーのNeck-Line(NL)とEdge-Line(EL)の仮定ゆとり量を第3,4報の動作に伴う頸部体表面の変化を資料に設定し、着用感および外観の官能検査を行い、動作に適応しかつ外観も優れたスタンドカラーのゆとりを求めようとした。

【方法】被験者は平均年齢19.3才の女子学生3名。実験年月日は昭和57年8月。石膏ガーゼ法により作製した頸部の静止時平面展開図をゆとり0のスタンドカラーとして、このNLとELに第3,4報を参考に仮定ゆとり量を設定、直交表L₂₇に割りつけた。(表1参照)なお、NLのゆとりは胸部NLの頸付根点(SNP)と頸窩点(FNP)で設定した。実験服材料はトワールを用い、衿は接着芯(バイリーンFF)を接着し1日常温で放置した後裁断、半袖前明きブラウスに付けた。外観の官能検査は判定者5名が頸部静止時に、着用感には被験者が判定者となり静止時、動作時(側屈,回旋,前後屈)に行った。判定箇所はNLとEL各々の後部,後側部,前側部,前部、判定は「きつ—ややきつ—良い—ややゆるい—ゆるい」の5段階である。解析は累積法を用い分散分析を行った。

【結果】1. NL:SNPでのゆとりは、着用感では0.5~1cm、外観では0.5cmが良いようである。FNPでは、着用感が1~2cm、外観はこれより少ない方が良い。2. EL:外観,着用感から、後部はゆとりは0でも良いようであるが、前側部、前部は全体で1~2cmのゆとりが必要のようである。また、NLのSNPやFNPのゆとり量がELの外観や着用感に影響を与えるようである。

表1 実験の因子と水準の割りつけ

因子	L ₂₇ の列	水準
被験者(A)	1	A1, A2, A3
胸部NLのSNPでのゆとり(B)	2	B1 0 cm B2 0.5 cm B3 1.0 cm
胸部NLのFNPでのゆとり(C)	5	C1 0 cm C2 1.0 cm C3 2.0 cm
Edge-Lineでのゆとり(D)	9	D1 0 cm D2 1.0 cm D3 2.0 cm